
夏祭り

かさのきず

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏祭り

【Nコード】

N3745H

【作者名】

かさのきず

【あらすじ】

夏祭りの話。主人公「裕一」は「由香」と待ち合わせしている。

（前書き）

短い時間で書いた上に、特に気負いもせず書いたものだから、あまり
りではよくない。そこは保障します。

お祭りの日。無理やり母さんに浴衣を着せられてしまった。いら
ないって言ったのにさ、中学生にもなつてくると恥ずかしくなるん
だよ。

しかもその着付けが遅くなって、由香との待ち合わせに遅れそう
になってるし。

それでも、人込みをどうにかき分けながら進んでいくと、由香
はちゃんと待ち合わせ場所で待っていてくれた。しかも、浴衣を着
てる。

しばらくの間僕は見とれて、思った。そうだよな。男の浴衣なん
かより女の浴衣のほうが何倍もいい。

「遅いよ、裕一。見とれてないでさっさと来い」

「み、見とれてねえよ」

どうやら由香は僕に気づいていたらしい。気づいてたなら早く言
ってくればよかったじゃないか。

「だって、鼻の下伸ばしてて気持ち悪かった」

「そこまで言うか！ そもそも、今日はずっと家にいるはずだった
のに、お祭りに連れてけ。と頼んできたのはお前だろ」

「頼んだんじゃないよ。命令だよ」

「なお悪いわ！」

「はいはい。早く行こう、裕一」

ぐ、まったく聞いてねえな。くそ、ここはひとつ由香にもガツン
と言っておかなければ。

さあ、言っぞ。言うったら言ってやる！

「あ、たこ焼きおいしそう」

「おい、由香！」

「食べようよ、裕一」

「……お、おう」

「もちろん裕一のおごりね」

「……………はい」

結局言えなかった。甘いのかなあ、僕は。

「たこ焼き、おいしいね」

「ああ。そうだな」

ま、いいかな。と、僕は由香の笑顔を見ながら思う。
うん、わるくない。

「そういえば、裕一」

「うん？」

「浴衣、結構かつこいいよ」

（後書き）

うう、全然だめだ……。
随所随所の文章が……。
穴があつたら入りたい！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3745h/>

夏祭り

2010年10月27日13時30分発行